



中村俊定文庫

文庫 18

500

2





うしとちちとほくむ

え福七のくち夏同らき初三乃日素夜書

むろくのつと四乃出る山流成

世流

まじしに糖子乃帝一し流

世流

家多言信とまのて一きとらけ

全

上乃多やうにあらるふ乃止

世流

雪乃四をくくくくくくの空

全

数越くあはあま乃さひお

世流

あはくくああくくくくくわん

世流

娘とあき人子あはあめ

世流

又二

ちあはうまひかかーつとあ^{イモト}細書

世流

こくくく雨乃あめぬ 六月

世流

おけくくみりくくくくく向河流

世流

りくくくひあひか袋乃事

世流

あき方乃持取とあきりり

世流

こんばや丸くくくくく名月

世流

あひ乃よあ掛ふ比まくとる

世流

あひお子あ 居合ひくあよ

世流

あひ乃流りくくくく示乃流

世流

あひ乃押流く壬子乃金佛

世流

あひ乃に書乃いふと吹は

世流

あひ乃あきくくくくくあ

世流

名

江戸乃 ち右むつりれきまき
 こ地は じりりやうく 紐とく
 方くしに 十敷乃 内志まの乃 春
 桐の本ま 月さゆる し
 門志めて ちまつて 神さ 面志
 田らよ じをり 表うへ 丁し
 まつ年ま 女房乃 丹やこ 振き
 又このころ ちま ちまぬ 空手人
 流す乃 湯浴を 送る 花さしり
 ちま ちま 下りく ちま ちまの 出来
 ちの 来て 来乃 ちま ちま ちま
 魚乃 ちま ちま ちま ちま ちま

又 三

ちま ちま ちま ちま ちま
 未を乃 ちま ちま ちま ちま
 清く ちま ちま ちま ちま
 屏風乃 流す ちま ちま ちま

三吟

兼好も 是 潮り ちま ちま
 ちま ちま ちま ちま ちま
 片乃 ちま ちま ちま ちま
 ちま ちま ちま ちま ちま
 ちま ちま ちま ちま ちま
 ちま ちま ちま ちま ちま

五ノ一深父とて水ノ一平苗母
岩のいもらの志白ユコ
向ありり 降軒金鴨の鳴出で
さか町よりむくし 西ノ一
竿竹にまき乃純太分りま
る、歌水ノ一わくく人あり
言乃月ノ一系乃あけわくじ
掃とつり 檀ちりし
ちり年れオてり物公よりほあ
坊えに列水とせり仁平ハ
松経や矢川ノ一もりねる編
吹と勝もつりし園乃取

初年
母波
孤至
利牛
母波
孤至
利牛
母波
孤至
利牛
母波
孤至

又
七

十二之弁乃一らま乃打とら
牛堂はし心まけり
四乃五乃一乃とあり心竹乃色
只奇籠りり口まく
近ノ一路乃一とを初て
天ノ一乃相上之乃乃照
まかゝり江中は正の二
録乃実乃一と根を
平乃乃乃一乃一乃乃乃
西船彼一乃乃一人をくつ
けらく一と二乃季乃のひ
けらく一乃一乃根に

利牛
母波
孤至
利牛
母波
孤至
利牛
母波
孤至
利牛
母波
孤至

月影のまきりけ垣乃 泣き
 泣き 孤至
 三 猿蝶解、いこくと庭に起るる
 小空をまらる乃 夜露
 孤至
 縁端の影は心定とかけ出
 満乃 涙のしと念乃くり
 世故
 妻知乃 替は子海に侍る
 孤至
 愛の心しるし 赤飯の舟
 世故
 お血の子孫のち小くたれさ
 世故
 又の鳥乃 古是のし
 初年
 泣き 泣き 泣き 泣き 泣き
 世故
 泣き 泣き 泣き 泣き 泣き
 世故

云
 九

月影のまきりけ垣乃 泣き
 泣き 孤至
 三 猿蝶解、いこくと庭に起るる
 小空をまらる乃 夜露
 孤至
 縁端の影は心定とかけ出
 満乃 涙のしと念乃くり
 世故
 妻知乃 替は子海に侍る
 孤至
 愛の心しるし 赤飯の舟
 世故
 お血の子孫のち小くたれさ
 世故
 又の鳥乃 古是のし
 初年
 泣き 泣き 泣き 泣き 泣き
 世故
 泣き 泣き 泣き 泣き 泣き
 世故

利半
 孤至
 世故
 初年
 孤至
 世故
 利半
 孤至
 世故
 利半
 孤至
 世故

秋のうへに漏れぬ刀の歯はむらさき
 赤みそ乃の只の肉よりむらさき
 みどりへ平の笑うらみと物乃花
 紅き色と娘とまはるまき戸の柳
 秋風
 秋のこころ乃てらとまき色とて
 其角
 七も子や花の志うけて切刻
 世故
 うらみ水くく若葉摘世と腫ゆ
 仙杖
 泣より乃文乃をいへ
 樹乃一足つりしわく色こふ
 其角
 大くや蝶乃のゆくまの殿 月
 大妻
 秋の肉まはるまき色ぬれ巾衣
 他花

又
 十二

深川乃乃云々

秋のうへに漏れぬ刀の歯はむらさき
 赤みそ乃の只の肉よりむらさき
 みどりへ平の笑うらみと物乃花
 紅き色と娘とまはるまき戸の柳
 秋風
 秋のこころ乃てらとまき色とて
 其角
 七も子や花の志うけて切刻
 世故
 うらみ水くく若葉摘世と腫ゆ
 仙杖
 泣より乃文乃をいへ
 樹乃一足つりしわく色こふ
 其角
 大くや蝶乃のゆくまの殿 月
 大妻
 秋の肉まはるまき色ぬれ巾衣
 他花

柳

能つるい今打こむ少あゆみ
 喜る雨や燈のさきつぬるぬの漏
 交珠るつゝの夢や二こる
 ほうくくとこふ燈門乃つゝ
 乃乃切やけ乃々隈や風乃未
 乃乃のよきしきさ乃乃ま乃乃風乃

法橋因夫
 乃有
 芭蕉
 子冊
 忠流
 積規
 仙華

旅坊子へ

法交揚本は垣より内ハすゝ連代 燈坂

此能あしきし半あるは孤を法ま
 中らうらうらふ川さうみまら

中らあ、ここまて切も抄中し
 中あさぬら、好い月さうらう別れら

世坂
 利牛

夏部之菟句

看夏

埒くを乃裏外は日しぬら
 ぬく十日をやくハふあうり
 綿とぬく旅ぬハせり一ぬ更
 雀とらうやぬ手は姿やぬらハ
 云乃終けさくうけくのあふ
 扇至乃暖簾白一ぬらハ

嵐雪
 淨坡
 九節
 雪芝
 子冊
 利牛

う乃ふ

弁もふふやうう手柳の及ぶ
 う乃ら子乃絶るたうん園の門

芭蕉
 子冊

旅坊子へ

うらふれり子芦毛乃る乃夜明か 許六
卯乃るれり子扣あらくやかつらけ 文六

ゆららけ

株乃秋をやうう涼一めど、再 御妻
聲宗祇池の蓮あるあふ白式 素堂
うらひさや竹を子最に老と鳴 芭蕉

非也

すちきふら傳工わらうはまは 桃陰
ほくまは二乃格乃夜明うな 其角
仍燈紙有まぬ工七んほまは 嵐春
柳折乃くまはは論なり一りまは 杉風
あのみ山とくまは編もや郭之 芭蕉

十六

まの中やあかーやる子視 素堂
時を常一風が酒はなる 利牛
子視最乃出さ山あ格子式 北坡

麦

挿すに麦穂イヤヤ他がう 荆口
麦乃穂をくまはにうよくや荒原心 千川
麦沼るん田柳やほまき実とよ 許六

為乃語川と川すきまをて

刈こまー麦乃白いや宿乃風 利牛

おかーけり

麦畑や出あうけりる程麦の中 地波
おかーけりる

浦風や吹くる横のそり水きく 盛水

端午

西のく内や奪ふけくる小人形 其角

才一ぬきゆくみくやけつまけ風の毛 大坂 佃堂

五り返糸すく、あやふふ介 桃隈

又もかく口上もかー 糺五把 岩宮

少と乃やま着乃骨に甲多連 仙石

物よかきくしぬきあつ拾く糸 素彦

夏菰

並和紙みうく町のおつはく 卧る

栞葉平ノ豆魚あつー 是れま 斜嶺

二之平為終いゆきしあつはく 其何 豊岡

又 十一

くげ山乃力乃くぬあつはく 猿轡

すく地やきくぬあつはく 芭蕉

五月雨

あや水やまろく一割る丸市橋 素花

あらし雨をりあやま川大和川 桃隈

あらし水平小餅とにきく子平介 那波

あらし雨や一家のいともあつはく 岩宮

涼

五月雨や顔もふくまのふ 盛水

川中乃根もはくはくはく 芭蕉

月影にうつくしきはよき花の光り
浄くさよ輝きしる竹の枝
清風はこころを清くみ住む
まじしことくはつれづれに
まじしこや浮洲の上ればこころ
まじしあふまじし石のけり
まじし月影にうつくしきはよき
花の光り

まじし

橋や字のぬれをあらうとく
花の光り

花の光り

花の光り

まじし花の光り

まじし

山崎七郎も出づ 田舎舟

ひるくはや雨降るよき花の光り

まじし山やくすくすあせらるる

花の光り

まじし乃雨急こはるる

まじし乃雨急こはるる

まじし乃雨急こはるる

まじし乃雨急こはるる

まじし乃雨急こはるる

まじし乃雨急こはるる

けしよよに物なれ柄やせきの山年
一枝をすけふよ竹のわうくみ
竹乃子や少人せと出ぬ手乃らん自
瓶毛

まろへき人 借う酒をちりむ事と世に
飛ううひて語ちしむるものある金に
うれとよくわくあつてまふりあし
名何ぞあふりとせ出せあしとせれ
うれとけつとあふく

あつて酒よ者乃つくあつては 初年

あつて人の別世まらふおあるわら
てあつてりてまらつてしお
あつてとわくわくみくやむるを
世故

穠之部

秋のあふれつれく
月とあつて時假の居とえらうす

名月

あつてやあつてあつても居ぬ秋よき
あつてや振れよりの来の虚
家世とくともくく月あつて
あつてや波吹起ぬ春乃
あつてやあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

むすの仲秋のまらうくく
望峯、不盡波と

明月也 不二尺ゆらうしする町
手記

セク

世のこゝに松竹やほりよ

真角

星を千りぬえにやちの縁

孤丘

セクやうらうらうるあまれ川

龍毛

七堂屋上

とくまのやうにうらまのよ

西堂

誦くくさくさくさくさくさく月

松子由

孟乃月ぬくくくくくくく

非城

湖島

田園

湖島やうらまの松竹の門の庭

真意

ちちやうらまの松竹の庭

利合

又

二十一

しつふくおまをん柳ハ

ぬ夫

秋虫

手よりくくくくくくくくくく

ち月

物より人のくくくくくくくく

土牛

指伝平くくくくくくくくく

力丸

くくくくくくくくくくくくく

狐毛

兼

文庫の峰とんくくくくく

車馬

くのくくくくくくく

庫のふんけや柳の影

若竹

藤竹のうら

とらぬやうらまのうら

寺乃

草子花

多海世乃 蕨や ちり秋の花

柳流

花すまふとくへらうや村すえん

野寺

片里乃 蕨や 州の 宿の 端

弦鉄

芦乃 世や 虫拾 扱ふ ちり

文州

あつしはき

芦乃 ちり 女 若う 山 ちり 也 客の 宿

ちり

山中の 草花とく

草花や 露井の 水に ちり ちり

草菊

園菊

菊畑おく ある ちり ちり ちり

ちり

秋の 菊も ちり ちり ちり

桃流

又 桃流

秋花也

秋の ちり ちり ちり ちり

初幸

秋の ちり ちり ちり ちり

秋菊

秋の ちり ちり ちり ちり

秋白

秋の ちり ちり ちり ちり

秋白

ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり

あまのこゝろを石をわすしのさへして行旅
のさへこゝろをわすれは念しきとこれ
たふさるるわすれは乃つてはまじりて
いひつらうれに階乃つてはあらのひんけと
いひつらうれにあやうくむく結とてあま
まのひんけにこれあやうくまじりてあま
うゝ結つてはあまのさへあまのさへ
てひんけのさへあまのさへあまのさへ
あまのさへあまのさへあまのさへあまの
あまのさへあまのさへあまのさへあまの
あまのさへあまのさへあまのさへあまの

又

あまのこゝろを石をわすしのさへして行旅
のさへこゝろをわすれは念しきとこれ
たふさるるわすれは乃つてはまじりて
いひつらうれに階乃つてはあらのひんけと
いひつらうれにあやうくむく結とてあま
まのひんけにこれあやうくまじりてあま
うゝ結つてはあまのさへあまのさへ
てひんけのさへあまのさへあまのさへ
あまのさへあまのさへあまのさへあまの
あまのさへあまのさへあまのさへあまの

石をわすれは念しきとこれ
たふさるるわすれは乃つてはまじりて
いひつらうれに階乃つてはあらのひんけと
いひつらうれにあやうくむく結とてあま
まのひんけにこれあやうくまじりてあま
うゝ結つてはあまのさへあまのさへ
てひんけのさへあまのさへあまのさへ
あまのさへあまのさへあまのさへあまの

あまのこゝろ

あまのこゝろを石をわすしのさへして行旅
のさへこゝろをわすれは念しきとこれ
たふさるるわすれは乃つてはまじりて
いひつらうれに階乃つてはあらのひんけと
いひつらうれにあやうくむく結とてあま
まのひんけにこれあやうくまじりてあま
うゝ結つてはあまのさへあまのさへ
てひんけのさへあまのさへあまのさへ
あまのさへあまのさへあまのさへあまの

生明とくわ水とくわ〜カ水部 録上

精白のころ

少収雨庭とくわの細ら挽や〜カ 世岐

大根引とくわと

新三女平〜カ坊とくわや大根引 世意

法よんれととれく〜カ大根引 世岐

亦し〜カおの 土大根 西寺

は心さ〜カ

人等のおまを〜カ 世岐

このけら先捨好〜カ 示牌

たる麦切〜カ 利牛

ス

〜カ〜カ〜カ〜カ 我看 里末

土の二句とふ〜カ

他おりの秋〜カ

〜カ〜カ〜カ

雪

〜カ〜カ〜カ〜カ 世岐

初〜カ〜カ〜カ 利牛

〜カ〜カ〜カ〜カ 世山

雪の口〜カ 依し

雪の口〜カ 積籠

〜カ〜カ〜カ〜カ

杉のそとに多樹し 水の流
まぬれ 鶴や 依世の 力の 是れ 約
うつさき 木は 人さる せう 山
屋高き 井 陸 剛 さいくろ 言 吹 之 舟
海山 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
のの 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

題詞

あふし 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

櫓の火やあつまつた 舟 舟 舟 舟
庚申や 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟

くろよまきの舞ふはらうまのふき
わらふまをく雪一相よのまを
鴻はら乃りぞくしよまのまや
くハの飛ハるまらうまのま
ま乃く水まよまはまはま
まままのまらうまのま
いまのまらうまのま
いまのまらうまのま
いまのまらうまのま
いまのまらうまのま

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

訓読秋之部

秋乃平尾上の物上難ん
あくらく一相法やうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま
あまのまらうまのま

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

けり物あり出さるるは
 孤身
 秋の月乃さつ水公くし
 其角
 厨のれりは袋のく
 孤身
 母らこし乃梅津桂乃夜中ら
 孤身
 ぶしの子ありまのくせし
 其角
 つきんぬるま令れつん
 今
 ふ乃縮乃あるさ
 孤身
 五乃たれがくよ
 其角
 あざりしく小信いおれ
 孤身
 手乃空窓柑乃孩もあ
 其角
 早よまあうあ風
 孤身

又二十七

君のあゆむこり水乃青れあ
 其角
 得と端の片のあつる
 孤身
 きり崎く岸のこり秋乃水
 其角
 小り冷れ月乃空し
 孤身
 紙短しくは
 其角
 上流より
 孤身
 小雲渡心
 其角
 小も多つく
 孤身
 孤身
 其角
 其角
 其角
 其角

云々氏田三行

今より拾ひあつたての字を山手外
 しんしんあつた秋風
 八月の夜ハあんのんとお明く
 峰のふちきく相月山うう
 洞空ううらふめらんてつた
 つよと波うう雨乃ついでや
 爪の爪はうううんまうう
 近くとあつたき冬はうう
 道ううう者を常行ねる
 いつたりううい十月乃てら
 きまふらうううううううう

秋波
 新牛
 桃渡
 中波
 新牛
 桃渡
 中波
 新牛
 桃渡
 中波
 新牛

又 二八

今より拾ひあつたての字を山手外
 しんしんあつた秋風
 八月の夜ハあんのんとお明く
 峰のふちきく相月山うう
 洞空ううらふめらんてつた
 つよと波うう雨乃ついでや
 爪の爪はうううんまうう
 近くとあつたき冬はうう
 道ううう者を常行ねる
 いつたりううい十月乃てら
 きまふらうううううううう

秋波
 新牛
 桃渡
 中波
 新牛
 桃渡
 中波
 新牛
 桃渡
 中波
 新牛

松のふまきり一月さくし
 月しり老の剣乃あくくく
 孝を子にせし又其の心をうけ
 ふいやくにあまの占とまて
 志やくしんくやくあくの南
 帳子。肩エうらぬ早あさ
 云ふら越別家牛念入
 施あけ終念も 露回 勢
 露分さくくくくもゆくく
 ちりまきりやうれいしうと
 先んゆきくくくく入井
 ぬくよりまきりくくくく
 利牛 桃部 世波 利牛 柳津 世波 利牛
 又 二十九

ちりまきり風のうらぬまきり
 井さき自らゆくくく
 揺愛の房らくくくくく
 流つたやくしゆゆす
 高き山の樵乃小節とれよ
 川くち山牛月とるくく
 如也乃解と解のあまの風
 新木乃 安ま玉乃まきり
 洞乃まきりまきりまきり
 早さくくくく 二十ハ
 心さきハ 耐軍乃ちりし
 世波 世波 世波 世波 世波 世波
 世波 世波 世波 世波 世波 世波

法氣乃多々一執法也其
 明心之正統挑灯と云はしく
 肩痛子ころ湯釜の湯茶
 上りまこれ茶利正の元
 了り出ぬり、内と忠十侍
 細亭これたらと云つ水
 堀千門のる西千一石元
 けはれ録畧も子と摺月と石
 砂と眩れうらとら 茶千一
 新島れ養も母らつくまの上
 吹くら水谷のさくらりり
 川我乃帯一の水とあふりり

世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念

又 一

平比乃幸れうまきと執法
 干拍と日向乃方へいせとせと
 後出の野れ苞れくくと茶
 茶千一に世代えり茶千一
 又沙はのりてとら 世波
 茶千一とち茶も茶の
 茶千一これの正状乃記き
 中よりて備茶今の借りか
 茶千一も茶と茶の月
 風やとて私乃既れ麻さる
 既れ唱子れ記とゆつゆ
 りりはとと茶乃揚揚の切脚

世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念 世波 孤念

目まよりのつきねらふく
こころもま乃こゝ内中射ら
静峯れちり跡をらよまら風
利牛

芭蕉 世岐 孤舟 各九句

雪のあまあま口みまそ高きし
のゆるちく乃あまきあき元
下者と一舟渡す打明し
あいらしきまらく大名乃世
乃よあいら風もふつて乃月夜
粟とこころ小くゆらまら島代
利牛

又 三十一

つぎ各れほきし秋乃水
あいらしきまらく世岐
こころもま乃こゝ内中射ら
静峯れちり跡をらよまら風
利牛
目まよりのつきねらふく
こころもま乃こゝ内中射ら
静峯れちり跡をらよまら風
利牛
雪のあまあま口みまそ高きし
のゆるちく乃あまきあき元
下者と一舟渡す打明し
あいらしきまらく大名乃世
乃よあいら風もふつて乃月夜
粟とこころ小くゆらまら島代
利牛

撰者古意門人

高谷氏

小泉氏

伊田氏

利牛

野城

扇屋

みゆの乃雪 ころころ花もゆらじ 母水
 とも乃のなかり下戸引てあるいふが 糸洞
 下への下れ空をとりく水ん花の湯 越又
 花乃山空や打くある枝もかー 津島一井
 又あうーふりふありぬ花の滝 俊似
 月を乃りうはらりり 花乃とき 氣彈
 ちる花を沼ぬ人をもー 舟泉
 空けの影をもうも花乃時 胡及
 とも乃の舟 津島舞りいよい 舟下
 葉舟乃のなかり雨 津島下枝
 おしひよちかて遊りう花の枝 西歩
 連ころや後才かおー花乃時 若手

痴癡のゆきころゆるる花ん外 傘下
 あーるあやれ車雲の花乃とき 為甚
 花よまきうつらーく威んうね ことつ
 山あひ乃それ城タりりうん国が 心苗
 ねあーらや即空座ハ何よ花の中 越人
 たりあひやまう花をなれ地まれ 舟水
 独あくく友選ひりり花の山 夕程
 花をるところ暮わる尾よ外 空支
 首出りて思乃花んを飽とを包 為今
 酒のこ花ん人乃時中
 月を乃くくして酒のむけり外 芭蕉
 あー人 山家よりうて

檀のまじり 孔子のうぬすまふ 全

杜宇 二十句

けしきと相とくものよ求ねておやう時不
 ちのちをたまたま心ほくまふ初う不
 目らまらまら心ほくまふ初う不
 いしきと相とくものよ求ねておやう時不
 榊福乃乃ひらふふらうやほくまふ
 おふし子乃乃ひらふふらうやほくまふ
 柳風 先ん氣乃乃つく冊よしの野公
 けしきと相とくものよ求ねておやう時不
 あつ人のまはるるさるるさるるさるる
 けしきと相とくものよ求ねておやう時不
 嵐屋

晴らまふやうなつとくものよ求ねておやう時不
 柳風 先ん氣乃乃つく冊よしの野公
 けしきと相とくものよ求ねておやう時不
 日

けしきと相とくものよ求ねておやう時不
 柳風 先ん氣乃乃つく冊よしの野公
 けしきと相とくものよ求ねておやう時不
 日
 李桃

うらやまのこころをいふまに 三山

月二十句

三四年

かゝる世の中へゆく月夜に 梅香

りぬくも月をる中の物も花 湍水

月の光をいさうからの今も花 一草

面乃るもささる所の存あり 越人

くくもささる少服むく月夜に 昌碧

をくも繁のさるはされや月の影 本橋

りくもさるもさる月夜に 一髪

とこまもさるもさる月夜に 本如

峰迄夜物もく月夜に 任他

一つをやららるる月夜に 無洞

名をいふ水明るまはもあつり 越人

名をいふやとくふ十二のまもさる 文鱗

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 昌碧

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 傘下

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 二草

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

名をいふやとくはさるもさるはさる舟 世水

春の月を待てば花もさかしくや月の影 一巻

十三夜

秋の月を待てば花もさかしくや月の影 秋風

節り

春の月を待てば花もさかしくや月の影 春の果 為さ

二

春の月を待てば花もさかしくや月の影 全

三

春の月を待てば花もさかしくや月の影 昔昔

四

春の月を待てば花もさかしくや月の影 卜枝

五

一四 五

何日ともあらずに夕もさかしくや月の影 伊集 一泉

六

沼川を待てば花もさかしくや月の影 長詩 鳥声

七

能くもあらずに夕もさかしくや月の影 波草 一巻

雪二十句

大けりし

春の月を待てば花もさかしくや月の影 真角

春の月を待てば花もさかしくや月の影 昔昔

春の月を待てば花もさかしくや月の影 壺文

春の月を待てば花もさかしくや月の影 加生

春の月を待てば花もさかしくや月の影 小喜

まらまるとんてくく私を洗く
はつまをにうぬぬるまは蒼小
ものうけの好くぬもをれ一り
くくまぬお後くくくまの隈
雪波くくくまをくくく形
おのくまをれくくく枝折
ゆきけれも川筋斗なれく
初まをやれくくく奇麗
まの江の太舟よりハ小舟く
まの船から鯉くくく声く
まのまをれくくくやまの色
まのくもれくくく海強飯

越人
之草
雲芳
二水
危仙
除風
響江
案下
芳川
冬文
桂夕
花夕

ヤ
六

とらまや先ま後ほど清ま
はく種くまをれくくく不
まけくくくく海のま

路通
妙水
芳川

案目

二りまめくくくく花のま
ま水くくくく花のま
つく水やれくくくく
ねきり伊勢くく家買人ら
くくくくくくくく
有まかまめくくくく門の松
かさりまめくくくく柏外
えおやれくくくく

芭蕉
古鏡
風鈴
其角
文鏡
去来
一目
路通

大服ハツフクハミヤノコノミヤノミヤノ
常トコハレヨシヨシハレヨシヨシ
乗ノリハクニニニニニニニニニニ
神カミノミヤノミヤノミヤノ
きキハクニニニニニニニニニ
野ノハクニニニニニニニニニ
とトハクニニニニニニニニニ
初ハジメハクニニニニニニニニニ
まマハクニニニニニニニニニ
りリハクニニニニニニニニニ
我ガハクニニニニニニニニニ
ハクニニニニニニニニニ

永字式エヒジキハクニニニニニニニニニ
貞室マコト

初ハジメ

若菜ワカサイハクニニニニニニニニニ
粧カガミ出デハクニニニニニニニニニ
十ジュウハクニニニニニニニニニ
女メ出デハクニニニニニニニニニ
例レイハクニニニニニニニニニ
吾ガハクニニニニニニニニニ
石イシハクニニニニニニニニニ
夜ヨハクニニニニニニニニニ
むムハクニニニニニニニニニ
蘇ソハクニニニニニニニニニ
ハクニニニニニニニニニ

ハクニニニニニニニニニ

梅おろくあへりてん池の氷中ハ
 舞もたしむせし乃すまのそおがし
 みの山ハとらればはる梅のささりハ
 冬柳

洞代民故の息よささく

由毎のゆきならんとやしくもや梅の氷
 うらひすの雪そよふる光り形
 雪うけしや梅のうす片もふも
 あまのひのや雪くもふるそよ約瓶
 うらひすちいさしそよも梅の氷
 うらひすそよ梅の氷
 うらひすに梅の氷

芭蕉
 一柳
 一柳
 一柳
 一柳
 一柳
 一柳

九

ゆきうすはらとよりの梅の氷
 はくこはつゆとよの梅の氷
 はく人のいさるとよの梅の氷
 つゆあやもや馬の眼はらり
 むせしつゆとよの梅の氷
 つゆあやもや馬の眼はらり
 つゆあやもや馬の眼はらり
 つゆあやもや馬の眼はらり
 つゆあやもや馬の眼はらり

梅下
 梅下
 梅下
 梅下
 梅下
 梅下
 梅下

暁の湯籠あくるはくはくか
あき

日

萩はく萩のつらぬつとけり
ト枝

まき雨

まき雨はくまき雨はく
はく

日

まきの雨はくまき雨はく
はく

水屋

まき雨はくまき雨はく
はく

まき雨はくまき雨はく
はく

まき雨はくまき雨はく
はく

日

まき雨はくまき雨はく
はく

まき雨はくまき雨はく
はく

まき雨はくまき雨はく
はく

まき雨はくまき雨はく
はく

紫亭主人地蔵を
紫亭

池子柳を
素堂

風の吹方以後
水

何事も那ーと
越人

一柳一
一矢

尺さうり
小春

すくれ
一か

とくつらまけ糸ととびてあまき小
 はさねれもむぎのゆらまぬ柳ハ
 りくくして垣子のうら柳うな
 吹風ふ牛のこまむく柳ハ
 吹く風ふふさふさふさるやふさふさ
 うさふさめりさうさうの柳ハ
 いそーき世澄澄とまぬ柳ハ
 蝙蝠子みさうさうの柳ハ
 まら柳よやうさうの柳ハ
 川いきまほ一ころよ柳ハ
 葉のたねいさふさふさの柳ハ

仲春

昌黎 杏雨 此指 杏雨 松芳 技遊 爲う 同 素秋 陽春 生村

麦の葉の葉のたねいさふさふさ
 葉の葉の葉のたねいさふさふさ
 ちりれらちりれらちりれら
 りの葉の葉のたねいさふさふさ
 うさふさふさふさふさふさ
 乃の葉の葉のたねいさふさふさ
 つもさふさふさふさふさふさ
 度々ふさふさふさふさふさ
 とまふさふさふさふさふさ
 乃の葉の葉のたねいさふさふさ
 うさふさふさふさふさふさ
 さふさふさふさふさふさ

石梅 冬紅 葉下 注網 玄珠 呂望 越人 笑軒 陰風 一橋 冬松 一袋

くら風まらうくらうさるさる
 あふのささきあてふ心程のささき
 ころろよつとあふさるさる
 りくらと論議解てやる程さる
 さとついでさあひさるさる
 あふさるさるさるさる
 いくすさささるさるさるさる
 花ささささるさるさるさる
 不圖と花さささるさるさるさる
 ゆさささの唐網さささるさる
 さささささささるさるさるさる

野水 一帯 宗澄 越人 去来 津島 雲下 一舟 柳風

桜桐の扱ふにさささるさる
 のやりさるさるさるさるさる
 のれさささるさるさるさる
 せんささ
 何れさささるさるさるさる
 わささささるさるさるさる
 さささささるさるさるさる
 さささささるさるさるさる
 さささささるさるさるさる
 さささささるさるさるさる
 さささささるさるさるさる
 さささささるさるさるさる

梅餌 然玉 石年 忠知 荷さ 冊水 永泉 西宗 灼遊 杖金 大坂 式

ぼろくも山吹ちるは波乃きる 芭蕉
 杉明子や山吹のいへー夜のき 舟形
 山吹としてよのまき水ぬあはれ介 上枝
 一まきし山吹のきくゆあつ小 日 襟帯
 しんぼをて山吹のきくしんぼ 日 蓬雨
 あやふもゆくもあやぬ燕水 去来
 去と年乃棠乃去ぬてと中は燕水 俊似
 いまきもしんぼぬきう乃燕水 長之
 葉乃棠水眼はすくせんう水 長虹
 葉水よりたてもさす燕水 草厚
 友減て鳴るらあやぬ乃唇 且葦
 角流てやもくもくゆ小席水 蓑笠

十三

ろら清くお歌よふ浦乃はてしハ 越人
 おやも子もはー 飲もや桃の河 傘下
 人まお心舟と陸よあはれしハ 三論 友そ
 山あゆふ花咲くあやる 躑躅う形 荷今
 鷹亦やあくくしてさるまゝの花 兼心
 舟火より火のきくけぬ粉舟外 糸旧
 永まじりや藩突吹もくぬぬに ト枝
 けりまのあはれはくは縁しんり 日 形水
 初夏
 こらもあやや白きハ 柳もはつる 路通
 更衣襟もはくすやたつくまふ 傘下

ころもく刀もさしつゝるゝた川 秋 菖草

肖柏老人のちたなまひーあし山とよ

香瓜ふる乃まむけよ文鏡くくねる

とてまのぬ越人うちらまるとまれ

くく咽るワちのけく結ますつら

整子施香もあふーころもく 花

山路まて

なつまてもーころまのーつん 芭蕉

つらつらとむくあふらんまらま 一井

柿花まらつゝとるこつらまをま 越人

切ふまらつゝまをまらんぬく様 不支

まをまらつゝまをまらんぬく 後藤

ア 十一

ワケもあくらまのまーの口もま 春内

ゆらゆらとまらぬま 竹洞

ゆあひーてまらぬま 池の

まけゆや下ゆく水乃汲弁本 まら

上へまらつゝのまの種とてま 玄堂

枯まあままらぬま せ林

まらつゝてまのまらぬま ゆん

ひまわらふまらぬま 経可

まらふ芥子まらぬま 花葉

まらぬま 庭核

まらぬま 桃

大粒系雨まらぬま 芥子の花

東巡

菱のひまわりを拾ひぬ芥子の花 吉次

你川乃乃唐西く

蕃の萩もくくありぬまづり 嵐老
さしけられはえすかつき 冊名

仲々

書のらら世こくく空外 元輝

刈刈乃る金も空外はくり月 一鼓

空くくき清き波のほら空く形 不交

周ちくくくきく等々空く形 風角

乃細く遊くわぬ波の空く形 吉江

あゑの萩らくくく空外 合占

くさめられ神もくくく 卜枝

9 十一

水乃くくく神乃くくく 秋時

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく 秋芳

くくくくくくくくくくくく 少長

くくくくくくくくくくくく 杏雨

くくくくくくくくくくくく 二水

くくくくくくくくくくくく 石火

くくくくくくくくくくくく 胡及

くくくくくくくくくくくく 思竹

くくくくくくくくくくくく 以鶴

くくくくくくくくくくくく 吉江

くくくくくくくくくくくく 吉江

十一

同ねふしとてくつてもあき水鏡外 世々
あ〜ゆま柳まきははけりふ 大津 一統
このはら小粒みありぬありゆ ちる
あ〜ゆま傘よまふまさと雨ふ 糸田 糸田
は草かゝ 貞室
ね〜う〜さしとさう持渡外 貞室
ね〜う〜さ 芭蕉 芭蕉
あ〜う〜もや〜くわひき持渡外 芭蕉
あ〜く あき あき
持のつ〜も舞さるわひて懐し あき あき
曰 あき 曰
あ〜ハ鮎もつ〜ん持飼丹 越人

二戸 十六

先あひ乃 穀とかまをぬ持あひ 大津 厚見
曲江よ舞乃ええぬ〜あひ 梅阿 梅阿
鴨乃集乃ええ〜りあるあひ 路通 路通
ね〜乃 緑と〜るな ト枝 ト枝
虹乃 根とかくは中乃柳 汎可 汎可
蘭乃 花や流よを〜音の庭 今 今
持乃 花や流よを〜音の庭 越人 越人
冷〜 や灯の〜なふ乃 あひ 名菴 名菴
百あひ花や〜まらよ傘とゆ 且菜 且菜
茶のの〜 且菜 且菜
す心つ〜る〜ふ〜乃 床依 其角 其角
夕〜らも花を〜くの飄〜 芭蕉 芭蕉

仰つる所のちりし人乃とてぬし
 舟水
 うの魚に投乃何れぬらさる
 借号
 山路未くう白くはのき外
 詩高
 名ハゆら海の魚は似く衣じ
 毛紅

暮の夏

楠も動くやうし輝乃あや
 昌徳
 きり輝腰にほたるむり
 舟水
 夕まよ子テ余争めつう
 傘下
 高し一才も板もやぬ亦陰
 去来
 涼しきよ雨をう入日
 去来
 心廉くく涼しや宿乃さつら
 花兮
 ときを乃舟あつうぬ早
 日

ねもつる乃人子連るり又す
 如風
 石就や州乃下す
 俊似
 涼しやも樓乃下ゆくあつら
 全
 挑灯乃とととゆる一席も
 卜枝
 すしとてはす心てゆる川切
 赤字
 吹らうてあ可く由く蓮く形
 秀方正
 蓮みむめ牛ノ才やまハハ
 松原
 心とととととととととととと
 古鏡
 河骨子あ乃ちれけふく水外
 芙蓉
 とうとうとととととととととと
 毛紅
 すまきりて捨テ乃舟乃ほ水外
 俊似
 庫あまの待と結ふとととと
 文欄

川をく馬子のおもむるよあふ川
かしのうら海草をさすけ志あふ
虫を成めくし子路あさう介
虫ほしや幕と好るるを横に
麻乃まふはやこほ水ううるの路
約清も後十けらる名あふ
綿乃糸をぬく宗は路うか

初秋

ちりちりや麻刈あくの秋の風
楮乃糸やちりちりあふし楮乃風

妻を向雲云のさうく

一葉散言く一肉まきさうし
仙化

僚月

尚白

一發

ト枝

越人

素堂

越人

圓解

一八

くひのちりちりや穂の夕ぐさ
芳くまき羽織杖早のま向外
新白の海草をさすぬさううか
葦草や楮乃のまき乃さううか
あふちり乃向まきさううか
子と字をあのよりひりたの白うか
鳥を成めくしの子をさすけ志あふ
陣あふはあさうほけううう
あさうちりやひくこの水に踏る月
美あうり美あふあさうか志あふ
秋風やまきさうううはるん
涼一さら座あさうり約鱧うか

は編 芳生

吉雨

芭蕉

文鱗

芳生

曰

臨出

胡及

氣原

去来

昌長

畦乃工字少物と申るりあてふか
 路汗
 ちつむいハ痛るゆらうゆらうり
 一髪
 きらくしハ物もまほしくゆらうり
 素秋
 あのそとら稲つちとほさうり
 芭蕉
 りあつるやまのハまらうら西
 其角
 ふま水てもちぬうらうや秋の花
 再泉
 ひうらうしと程多うもわら死
 芭蕉
 棚仕ルもちぬうらうら南菊
 伏見
 件ちしうかぬぬもあは花世
 任口
 えんき水く命短とかくる
 世今
 ゆらうや物もまほしくゆらう
 胡及
 宗祇法師のゆらうりて

名もーぬ小まなまきく地兼介
 素桑堂
 うーく乃物も根にうまますま水
 俊似

仲秋

かれたあ子鳥乃と申るり秋の音
 芭蕉
 つくくくと縁成入る秋乃扇介
 加笑
 小真
 谷川や茶代もよく秋乃うら
 味高
 益音
 石切の音もゆらうり秋乃うら
 兼下
 芥乃おや編幅出る秋乃そ
 卜枝
 兼乃まな人乃鳥らぬ夕て
 一髪
 因く畑は獨りてはるあは茶代
 伊藤
 一泉
 山歩々兼登るゆらうり笑りり
 字々
 紅きあふらたうとーへる函乃同
 其角

志々ぬんてしものりひてんるは葉
 穀かん中エ江葉そりくす之枝
 とこ心くかく地をよふ葉あをひし
 けう宿まてくくやう秋乃葉枝
 けうまよ庵まらふられし
 取まひ我なり秋とこらうらう
 素葉まへちりうて
 を守乃字乃ぬけつくしる連の
 一本乃芦の穂穂一むまきこり
 けう乃葉まひあてくく秋乃枝
 へんてくく秋乃ぬぬの葉
 へんてくく秋乃ぬぬの葉
 へんてくく秋乃ぬぬの葉

東順
 林芥
 越水
 宗和
 少枝
 越人
 石川
 舟車
 胡及
 地籠

甲
 二十

園の素牛のあひく
 さり砧跡とつ平まのまは下ま
 一のちく
 きのういうちてあまきうまはつま
 いそかーや舞ののち乃秋這等
 莫々秋
 ろのちくく枝しる葉の向ま
 ちく葉わらうあけ少は枝ま
 山路乃まきく葉まよも又らう
 つまやゆくの葉乃サ化さく
 荷乃葉ま枝のちく秋まあま
 とくし宿はくくらま器むれく

其角
 芭蕉
 芭蕉
 昌碧
 越人
 地籠

かろくけのまきこももやまのた 其南
菊乃つゆ洲の人や警備帽より 日
ひふまのうつて 兼他つたむひり 二水
わさくらうて 昔よりまのほも介 ^{伊藤} 千園
淋 さいや 糧は実高くぬき ^{櫻洲} 詩
孫も昔もいさくはちぬや林かお 如生
昔乃 穂や おひくもあちらあはれ 海通

あえつちたつそね ぬの雲 ぬま

あきらむらんまづつうりりな

一 飛来とて之井さくく初志くれ 尚白
もろくれ何れぬひ世にころり 瑞水

万句直書り

えまろくさ達ふ人のまをむ村雨外 荷が
人と侍うらむる年

とねの程きくそくはにさく水外 流格
流よりわらふ海のとん志くら外 雲云
流一字をり 兼他つたむひり 兼下
こかす さいの月乃 好手らるる 高字
一 抄の系もまはるより 一 髪
このまつく 泣は淋 さい 田舎裏外 日
靴和乃 花人たつぬき 市屋れ 日
とまわむ たいもの つあやまると外 夜長
和の系志くれやぬき 程淋 世の

善哉中乃いつつらりんるや降花
 昌碧
 妻あまきく奇麗ありし菴外
 全
 乃いんや妻あまきくはの衣く
 一井
 穂中の紙きくふくあらと燈
 落梧
 石臼の破りくおしやつこの花
 胡及
 ちくくしもくくさみこのえお外
 文鱈
 あしじ紅釣瓶より蕙くれ
 卜枝
 ぬ枯子風乃体よりおき丹外
 洞亭
 蓮池きんうらちいんゆる枯き外
 一後
 夜きかきく石きつあつつか水外
 松芳
 こかりしや吹しりり夜の中
 杏雨
 夜き持たぬまひまのる草外
 蕉笠

多月
 糖と出くなく月を面をき
 世水
 あき清乃大根のよふ月夜外
 俊似
 仲あ
 ねういやく清なるあつ影外
 勝吉
 志く流しつとくたすは影外
 津島
 樽よらるる妻あまきくは影外
 梅香
 柴乃平しほくくらまふあ影外
 杏雨
 いこくはあゆあうせはあら外
 宇之
 妻乃おきへんの雲のこゆ外
 杜園
 水網乃茶外まきくは影外
 勝吉
 深き池水乃しき影きりり
 俊似

つきりやうてらんをうきりりる水
おれをうてらんをうきりりる水

舟

崎よりまき舟まき舟とうりまき舟木舟

ぬりらるるまき舟まき舟まき舟まき舟

おとこまき舟まき舟まき舟まき舟

まき舟まき舟まき舟まき舟

つらつらまき舟まき舟まき舟まき舟

まき舟まき舟まき舟まき舟

舟まき舟まき舟まき舟まき舟

舟まき舟まき舟まき舟まき舟

舟まき舟まき舟まき舟まき舟

舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

井とろのものがいふ有きい
まはく男ハハハ裸ハハハ

汗出〜〜谷子窓か正氷字〜

海風揚乃まき舟まき舟まき舟

岸まき舟まき舟まき舟まき舟

膝節とは〜〜まき舟まき舟

火と〜〜まき舟まき舟

いつ〜〜まき舟まき舟

まき舟まき舟まき舟まき舟

歳暮

餅つまや〜〜まき舟まき舟

音〜〜まき舟まき舟

舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

むら花の流るるくくくくくく
 たる近く控つるゆも葉畑外
 粒をくひれあけくも瓢く外
 本るの内くくくくくくくく
 とく持つ実文くくくくくく
 のまよしーふりかかひあせて
 ー乃れ持乃実一ツくくく
 門ま越くくくく拾一荷り
 田畑子氣遊ふよのまよさく
 世取
 虫の
 一登
 若く
 四三
 存向

雑

年中行末内十二句

供養蘇白散

若く

いまのやととり多めんまぶる人
 其の系
 ーくくくくくくくくくく
 石清水臨時祭
 雷者もくくくくくくくく
 謹佛
 音もくくくくくくくくくく
 端午
 ねも瘦くくくくくくくく
 施米
 うち鳴くくくくくくくく
 若く

と巧業云

わが業あつし七ツ業ありて是より

約迎

爪髪も抜乃下らんやこゝろ心之

撰中

そよの地少や是乃おれらまきりぬ

十月より衣

五しきれ衣之と少くはるる花

み節

舞姫に弟と公指とれよりり

追観

ねを水くや服もまろく鬼打面

詩題十六句

群衆

人々石不知銀計今春風吹雪一時第

氷打し流るる水ありて是乃風

白片落枯浮洞水

あつたはるしに付る枯白

春水無伴閑遊也

花旁よりあつたはるる水は清く那

花下忘帰因景景

麻入あつたはるの川きりよ花の下

留春七分不留春帰人寂寞

以て来りしはるはるは乃時よりれ

巖風吹袂衣不寄復石鞆人

綿脱きたる糸字よりこゝろ

池畔人違草樹

蓮乃乃魚の川にありてはさきさき

暑月食家何処有客味唯冷北窓風

涼先とく切ぬまよりうた乃乃

大底四時心惚苦就中斷腸是秋夫

名の心強きまじくはなし秋乃元

秋乃風雨後秋氣飒然秋

秋乃雨を小く瓜うまふも白

世に終漏初夜を眠く星河欲曙天

飛しまきりのつらきうらみし水もまき

残影燈用猶斜光河穿牖

獨り森や流るる魚子まよの月

万物秋を能懐色

ふと夢や素秋てん心と秋乃ま

十月江南天氣好可憐冬景似春美

こがししもまじく一息つくくもまき

寂寞深村夜殘雁雪中聞

清きまき出せぬむし也君のこゝろ

白頭秋時併名経

併名乃形腰懐く白髪うね

徑園の柳花のこゝろ終日し

さびくにけりしりて

録

目立

かろふ乃夕日ふりきりたり

付木突 みる園水訪てとるしん乃の家
釣瓶 打 かつてとるはのこまを体秋乃里
糊賣 安さ家乃のこわしおれり心つりかう
馬糞撥 こわし乃の松をまきとつせえり

李夫人

越人

環在何許香煙引到焚處
わけうよ乃抱つてとつてこるも

楊貴妃

雲衣半偏新睡竟花冠不帯下堂
風子帶ゆとてとる麻鳥の飛

昭陽人

小頭鞋履窄衣裳青黛眉々細長

外人不見々應笑

もの粧奇やひひいさ乃後乃

西施

宮中拾得妹眉奇不証五口是愛君

花ふく々極くらる、牡丹、那

王昭君

玉貌風沙勝畫圖

く乃亦もしまま水ぬみ乃新水

一日留ととつてとつて

為君

庭やの故の、水餅似焼火子出、

社若生し淫書乃亦る日、那

海歌乃眠ととつてとつて

辰 弁 日

うつくしくてみくも新川 名所

一休

ひらひらとわたりや月乃空 瑞水

法然

鳴る乃ほくろひもあまきつ水 瑞水

山岩

ねく山、まき子減る、岩乃角 瑞水

海岩

苔くくくくくくくくくく 全

名所

ひきくくくくくくくくくく 杜若

—— 奥乃骨や式アうた山 名所

かき詩乃雪は花より賦 名所

草一掃るくくくくくくくく 瑞水

嵯峨肉くくくくくくくく 名所

既留留留留

吾強く思獄くくくくくく 名所

関あくくくくくくくくくく 名所

弟渡國園くくくくくく 名所

くくくくくくくくくくくく 名所

昔世出くくくくくくくく 名所

麦くくくくくくくくくく 名所

みくくくくくくくくくく 名所

湖乃れまきくくくく 名所

牛もあしをぬりあすりの五月ぬ 一髪

角田川さく

いさこのほれ流流乃能合ひを於る
みよりのかいふ秋之見乃るる
いさよいもあひさしむる部外
夕月や杖さあたる角田川
越人

九月十一日歌

唐士と富士あはれり乃月もるる
野実乃るるをさしるはるお田外
野実と昔は乃あ月のむら
衣もあせやいくあもるる村
池とを振るる人も人村
尚白

か下清やとあをあてきく初時初 伊藤 友

むすしあはれあへくとあ乃日あ 洪要

あつしとけはあ之乳と渡や小の奥 俊似

あすれ乃物懸轡やとのわく 深高 一笑

あす乃富士あをさつから水乃 満水

あし世山と唯大者乃夕夕那 世水

あす乃乃やあ彼の小家乃唯舞 芭蕉 如行

狂歌

あすあはれり上よやあらよ峠の那 芭蕉

大和守平尾村さく

あす乃流流とあはれるる那 全

橋つゝ甲乙賦をく通すりり 夕帆
日乃入也 舟をくく以船乃之 一盤
のしきりや漆乃 空乃生さうか 菖蒲
とくしん 腹さうしりつよむぬぬ之 芭蕉

あゝ人乃後あり

舟しきん 舟をくくさうり 冷風
森りしめふ 念體をゆる咽やさき 舟
蚊とさうしりらに 船内。 弦鶴介 昌碧
あらし雨や 柱目と 出れ市乃 舟 舟
夕之さうの 大者く 一志は 舟 舟
兼下

芭蕉士と送る

編纂ふらうしきつまじり別う船 舟
舟 舟

なまきくして 枝よまなぬ 秋乃 障
あまきん 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
あらし 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
さうさう 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

越人旅さうしりつよむぬぬ之

月乃の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

持舟楫を二番とあつりて秋乃山
とゆりし一箱をこゝろもむらり
入月之今をきりしけり
能手けり親母のうけあつり
一井

品川

文鱗

澤一巻乃草履はく小乃秋乃暮
峠林たもまらりしむらり
後乃山ぬ刀さしりて村さしり

謀
常秀

写海きり草履はく小乃暮

荷分

いくるるもまらりしむらり
さすりし羽織を綿乃入りり

其上用子ワの時

世水

二二二

あゝ多つしゆりきりしむらり
天就くしゆりれらるる乃言
くく尻乃るはくゆり子を介
甲人乃るはくはくはくはく
越人し吉田乃譯さ

越人

兼下

宗因

まゝくれし二人は旅ぬらりあき
旅中まゝしゆりしゆりしゆり

日

亦徳

州一巻は控りむらり

子ゆりしゆりしゆりしゆり
子ゆりしゆりしゆりしゆり
余は乃田乃地入ぬらりしゆり

路通

杖宜

為務

こまめく

若菜のたけあまねくり奥の味

杜園
梅舌

高野系

父娘乃志守りりしあけしけさ杜声

芭蕉

あやせきしれれきしそこのいてけ

冬宮

さし入深はかよひくく一盤

日

一本乃ふらむもあまは短おけ

香雨

肩をいれあそぶてゆらせと乃交

松風

似くくや白れなしかく麻子あま

虫洞

九りしらまあま乃高下り

から小室やよひ菜乃中子あま

嵐石

ア
三十三

うまの家はあつるまきのの取徳外

曉鏡

ム乃りらるをさる

さしこくあけれれあけれあけ

甚蕉

旧甲のくおははる

こめり乃あまあまあまのあま

杜園

鎌倉は長あまま

あまてくあまはあまあまあま

飛人

あまのあまあまあまあま

あまあまあまあま

あまあまあまあまあまあま

あま

あまあまあまあま

あまあまあまあまあまあま

あま

楷乃ち子親子とては伴好
月也遠く耳也ちうは
好も少や願乃結子は年乃
さほく乃さうてはの年
老とまはれは警先を
引もや致さうとわう

念

まら乃也子人ある人乃素血川
きぬくや余乃とらうも時
段をせく麻々不あはる別外
止一十乃月子立枕少人乃
虫下以小神とるくはる女乃

去身

西衣

芭蕉

降心

越人

伊勢

一有妻

除風

長紅

文圃

み文

ア

干也

さけり一妹、願結を甘きより

しるふ粉は雲無影

手白き乃編み消去や月乃
一見しくて人侍うぬれをさう

さしとら

つまれいと家とわらわ女
あつとありと存は明もつ
妻乃名乃あつと一はく神送
松乃申時雨く流乃をさう
おとひ火燧を明といふ
うとぬよ火燧消さる別外
止畑うとぬよとて夢

心結

長虹

尚白

高字

小春

越人

俊似

舟泉

嵐集

松芳

まめくくそと敷見をそとてあつらふ
おろろくもやまぬくのけし清はき
昌徳

無常

末期

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
守文

まめくくそと敷見

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
集下

末期

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
堀之順

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

ア三十五

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
京志

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

辞世

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式
あつたてむゆいゆゆゆゆと夕式

妻乃返るなり

とらる一しちて又甲人よ水あふ 自収

妻下り妻乃こまうしとらる

たしきしや田のこえぬく山ゆ 玄林

コ舟乃まうし後

そのんさむ動ふく形一秋乃れ 其角

母乃たれらるる乃まれぬ

たすあまや山ゆらう今らふ秋乃ち 尚白

あま入乃返るなり

煙火よまぬやあまの空なる 芭蕉

猿まてみまうらうらうんは

あま雪のしつぬらうは路小なり 芭蕉

多田せしつやま佛乃あむら 小僧

釋教

伊路乃く

神ほやたぬもくけは還来像 芭蕉

負くくも母わうしり種之像 蕉澤

西行上人五白采忌

まのまやしつ明鏡ささくうぬ 松竹

おのし遠忌

連鞠やまや口し志ほ水り架 胡及

うて着よ持乃棠くく係二ま式 松芳

本履をく借しをり雨乃ち 社圓

はるしつとふてはく花乃ち 松

乃上河信くも徳ん揚さる形 其角

貞享つらの一層乃罪証生一。

東照之乃別當信正乃必房に忍忍

左原近衛執事乃法華八海の信

く一もききやるれと極すまて

序品乃ころら

散る乃乃乃のくむく一乃乃 越人

世乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

世乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

叙るれ屋上乃極嘆より 俊似

左寺や信くまぬよ乃董草 一丹

ハ島く

法士乃家聖よ心正保生也 伊縁 十圓

頃より乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 一丹

雲山也中乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 蕪葉

左乃乃乃

階併乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 芭蕉

階併乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 尚白

乃乃乃乃

腰乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 一書

舟乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 一笑

十如是

わあやの流心く通るしんく

花分

即ち即併

ふん乃乃登陸ハるん乃解介

墨蓋

ほろくもや信乃流ねるまな

鹿原

ねくくや門あてあつく施餓鬼棚

花分

おけけ乃乃ととるむー乃乃乃乃

振丸

石筆と経緯巻乃乃棚乃乃乃乃

文里

魂亦あより酒と子向りお

糸洞

たまはつる道やまらる世業介

ト枝

投乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

灼毛

平小施一切

投乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

俊似

福斗あふ大佛ねるむ世中代

あふ

流越乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

ト枝

あふん乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

と結込不台不園いんと感一く

あふ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

あふ

あふ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

燕七御も乃乃鼓かつりうりてし

其角

まじ御く乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一井

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

ト枝

人の乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

衣をきて又くぬしつり一肘句 氣序

蓬舎乃安園論るる

乃しとよの海や直子水くし 越人

古寺乃を

曙やかき曇りし乃を又血い 海宮

は

衣れやうる二と乃片 腋 俊似

つくりしをくこい水もりし 一井

新麻すむ人のさるや清くま 文潤

千観くるとしかせりし 耳角

藻多島七句

如き者故火

あつ向き出のさるるあし介 胡及

如裸者得衣

名乃のや海指拾ふあまの家

如き園人得主

双ふ乃らひてよむこむつしを

如子得田

竹さてくおけくしつてくさけ

如後得証

月乃以清乃板もまきまきり

如宿得醫

かくくとき清水えける山を

如眩日得火

若みま細

きくろのふも妙し神々示
江乃万森あまの江の神あ
江奈川秋明乃福名神あ
あつしきれ神うらめしき色あ
松板や水板くも煤もくし
利重
池水
昌碧
村俊
ト枝

肩付といくらまなりぬ生あ
あま

若みま細

米まきし作し位にまあめさうか
君の代やえくしとあま玉つくま
ままあま何なりともれ仲乃石
あま
越人
兼下

いきくしむき乃とま秋つん
手代乃秋に何なりとくしとま
まらしかられあまのくあま
先程く秋はら乃あまの難つら
あま
田
菅原



ア
五
十
三
ヲ

曠野自負外

誰そ花紙ねむきもきりきりきりきり
 ありておのりきりきりきりきり
 四明の峰素よりきりきり花のこころにこれ
 とんとれらして依川田長いのすの山
 あらあきくしりきりきりきりきり
 夢の谷りしきりきりきりきり
 此の白屋露乃母水子乃能して昔焉
 菊の侍しきりきりきりきりきり
 比田舟へ唐とらりしきりきりきり
 感らむしきりきりきりきりきり
 人乃中
 に唐乃物語りしきりきりきりきり

一
き

ありて程色紙あきしきりきり
 おちよへきりきりきりきり
 きりきりきりきりきりきり
 かなきりきりきりきりきり
 かなきりきりきりきりきり
 かなきりきりきりきりきり

妻といわれきりきりきりきり
 この文人乃きりきりきりきり
 一と云ふ人用きりきりきりきり
 きりきりきりきりきりきり
 清乃語もきりきりきりきり
 も乃きりきりきりきりきり
 門乃石乃体園乃やきりきりきり

母水
 越人
 水

風乃目利き初秋乃雲
威士乃海乃山乃近
志乃うまうて海乃
彼乃うり終乃中
出乃長乃今乃
之乃
は乃わし清乃水乃
してらる雨
さくやうに相乃
有乃今乃乃乃端
手乃白乃くあ乃
山乃乃乃乃乃乃
於乃さ乃乃乃一乃
主乃積乃乃乃乃
あ乃て乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃

一
二
水

水 人 兮 水 人 兮 水 人 兮 水 人 兮

下乃うりあ乃乃乃利
根乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃

水 人 兮 水 人 兮 水 人 兮 水 人 兮

乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃

火の音のこゝろにまかりあつまじ
くくたしあのみえをよこ人のまを
あをましとせよと他乃かてを
るさるあまあもいさよと定るれ
押よいさるあまあもいさよと定るれ
里をらあまあもいさよと定るれ
た根まこゝろく千にりり

今水人今水人今

遠はゆやほよ志ゆきん崩と
けられあらよ海乃あま甲
のいさよあまあもいさよと定るれ
るを乃懼るままきりくわ小

海洞 高公 昌豊 舟水

夕月乃雪乃向さとうり泳
あま乃乃葉と祈よ川まを
新のゆきとともあまあもいさよと定るれ
一法さうしてさよも古 綿
ささかたさよよまをさうとる空祈る林
あまあもいさよと定るれあまあもいさよと定るれ
いさよともあまあもいさよと定るれ
湯あまのまのまをさうとる空祈る林
涼やとあまあもいさよと定るれ川乃綿
さよもあまあもいさよと定るれ月
秋風子女車乃 誓おとこ
社をまをさうとる空祈る林乃法輪

舟水 海洞 高公 昌豊 舟水 舟水 舟水 舟水 舟水 舟水

昌碧
 丹水
 龜洞
 菖兮
 呂碧
 納若
 丹泉
 丹水
 菖兮
 龜洞
 納若
 丹泉
 丹水
 昌碧
 丹水
 龜洞
 納若
 丹泉
 丹水

昌碧
 丹水
 龜洞
 納若
 丹泉
 丹水
 昌碧
 丹水
 龜洞
 納若
 丹泉
 丹水

丹泉
 龜洞
 納若
 丹泉

きつわのまきやまのふゆの月影 荷分
 秋草乃とくもふ言松暖とれ 松芳
 弓ひまいるらる勝お櫻とく 舟泉
 へふも亦あめ拾ふ心とら出る 荷分
 多ふりくく妙乃中乃亦乃じ 冬文
 火氣乃乃皮乃衣衣衣まきく 舟泉
 候えん踏しとくら祭日つ 松芳
 てるくく梨踏とらして為なる 冬文
 沼乃よま程わらして多川 荷分
 幾年一たぬれもせん早しき 松芳
 ともくく忍身乃乃繪紙先よも 舟泉
 ちふくくもくく志先りくく花の身 荷分

月乃 穢や花を井 乃 志 舟泉
 灯に 多ゆれらいつく 是れ風 舟泉
 漆跡くくくけく 根息乃く 松芳
 陸辰か入蓮よあす乃志りく 冬文
 十日のきくく乃わく 多ふりく 荷分
 山里乃 秋葉くくく 生 彌 松芳
 本持乃くくくくく やくさく 舟泉
 才ふくくくくく 水紙海く 月の影 荷分
 馬乃くくくくく 乃乃くくく 冬文
 才ふくくくく 金井乃 高乃 舟泉
 是れ 妙まきく 葺妻あふく 松芳
 つくくくく 流り 才のくく 冬文

庵あつく 控はあふ よ む 菖兮
 けいのた とまか とひるま ちりまう
 味ゆりきるとし の 隣さハハ
 若氏乃乃 門さあさけ 又 菖兮
 法ま へまあ へうふあま
 才乃乃 朝赤身 ともきこ ありく 兒
 顔ん子 中とる 在 世ん 菖兮
 きささき や 瀑と の けい 菖と こと
 り へ 面 向 け 山 口 乃 家 菖兮
 何とま け ぬん 乃 折 せ あり 菖兮
 雨乃乃 禁 こと して 戸 乃 世 水

川すて 一車ハ 控は 留乃 乃 菖兮
 あふささ けくも 人の けい 菖兮
 月乃 秋 菖乃 乃 乃 菖兮
 一乃 乃 乃 乃 乃 乃 菖兮
 初あ へ へ へ へ 菖兮
 葉畑 乃 乃 乃 乃 乃 菖兮
 土肥 乃 乃 乃 乃 乃 菖兮
 石 乃 乃 乃 乃 乃 菖兮
 通 路 乃 乃 乃 乃 乃 菖兮
 六 乃 乃 乃 乃 乃 菖兮
 代 乃 乃 乃 乃 乃 菖兮
 浅 一 乃 乃 乃 乃 乃 菖兮

月乃輕掌付子つらら舞下
 花咲りしとらちちの打
 大仙暮る冷命あはしまのそ
 りきよひの上音経乃中
 けいんとあうてま物うらをと
 子せりきほついでや
 弱乃やいひの依波乃小甲斐
 秋乃あしと音律 陽陽
 舞さくしちる水まらし生足
 八日九月のあまきしいとま
 山乃端二松と振りのあま
 まつまらむとこよらうくとま

全 全

星のきりや後うけ斗りむま
 太鼓たつきと遊子のあまら
 こらうくと舞うる小舞乃州松
 氣たて乃ときと舞乃あまら
 身もきつぬ舞乃一二年
 底とつらくとね格うしあぬカ
 くら乃ねむつらと火まらつ
 供を乃州鞋と入くそまら
 けくや小松大系暖峰乃花
 人むひよれはる乃川山岸

全 全

月乃のそらえはまら乃星もあまら

お母のうき柄とさーくハよき園
宗澄法師乃句とす心し物もよ友乃
水乃疾とふた紙まいたやまのつまぬ

月子柄とさーくハよき園
蚊乃ねるさうり互の疾の疾 越人
とららう夜道とまうとくさうる 傘下
ねぬひうまきうを始すしの穴 人
さあちねつうへねとくさうかさ 人
使乃者返のよあまらうね 日
あしこれと猫乃子と遊るまは 手
としーくさまてあちくしり 下
とこそやう手乃筋まて抱る 日

おとねいさけよはれ白の 人
大勢乃人よ法華とこふ水て 日
月乃夕子釣瓶縄う 下
いさよ柄も又らうまも皆澄一 日
秋乃うーさ北知みく 人
いさよまいつうけ世い書くま 日
麻ふうし書うふ字のゆわ戸 下
花乃まうらうしひらう溢あつ 日
さるあめくね乃こくま春風 人
しら群て浦乃岩を乃地すまよ 日
肉いしりてなぬわゆー 人
酔さあぬのぬりまはあせ 日

ちやちのつからし雨乃降生一
 款今猶古藤着おのくく
 ちん款立乃くかち、はりり
 竹は屋入沖こをくして押くし
 白とたこせまきりくまを
 ふく風よまのころるのふくくと
 半こころん前やふり林
 むつくと有るるまの親と解て
 人の語よはるるのこしちか
 にきハ一く瓜や直とまのひ込
 テヤは出た乃ころる中
 ねんくくと小法乃若の臣時
 人 日 下 日 人 日 下 人 下

皆同考よト一 念佛
 百善もくくひあよ花たのまら
 田樂き水く極淋
 人 下 人

深川の歌

房くくも志らうますそまのま
 ほまのおあふよこのはの
 着をく句流窮産よあつらん
 即此をあれくる科の夕くれ
 瓢箪早乃たまきさあ名をりや
 風よあふ水く帰る布人
 なおるりも中安は是名利の地
 越人 芭蕉 全 越人 全 芭蕉 全

医乃乃ねあきし世目らる所れ
いそくしと原色ののやまをゆく
飛よりせ話やく寺乃乃話より
け甲しよたすし言留れ名をつく
りて話をもやぬ雨乃あまの
まぬくやあまのりくあまの
う原のひきたまひ夢のうらら
自由つうは空の心後もさるあ
おひそくさきま路しりりり
月と花は良乃ま根と少やして
まも存さしてるさの肌あまし
破是戸の釘うち付る妻の末

越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人

ふんまひさひーきあまのひきりや
家かくつて服あまつて五十寸淺
かのみひあまの神子のあひひ
人去といたしは法坐の白ひら
初はくまはる堂乃片一隅
本まきんまのあまのま中ま
原種のをけあまのまはて
あやにくまはれまはくま
けのまはたあまのまはて
け月のうららのまはて清まらに
花もまはてまはれまはて
秋の田とかいせぬまのまはて

越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人
芭蕉
越人

さいくかうの文字同みらる
いうりく瓦衣の市薬や
張もまゝのり瘦てくひかき
むのは漢義もまゝやまし
田かーとらうく服きくら

蕉 人 葱 人 菘

翁と侍をわけて結ぶ人の老つとま

其角

さるるの月えそまうりり
之取さの月えそまうりり
菊萩の庭をまるとりつりて
飲くつらうく茶をまあまあ
唯うまうく研うけらるる友衣

越人 全 角 全

イ 十一

雀きこりりましくわうつまのり
恨る流あやうまうりりて
静御の初ま舞とらうりり
空探の遊魂の影乃れけらま
あまあうりりる令二つりり
いとおき子と他人ともな付り
やけとあうりりるつらうりり
酒熟火さ耳まつまうりり
魚とつらうりりるの江のこ
そえいらの宮田の浅草の暮
なとさうりりる草乃り一瓶
饅頭とらうりりる神まつりり

人 全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全

うき世にのびとぬ人の抜
 西王母東方鶴も同まらん
 よーや鸚鵡の舌乃らうき
 ありきあやうきまよる
 形心の報もさるあおのまん
 やね鳥ひ雁中ねるまはら
 米つくまは雁走しりり
 夕鶴宿乃も子後のの
 いくつの笠と荷よ強力
 定りらよ壺うらまの神
 ひのかまきりて伊勢の八朔
 満月よ不衡さぬと詠め

全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人

十一

念者法原の秋のあまうせ
 夕おら水あさうき子
 ろまきひて空あけのま
 りらうきりて食の結守
 かのきうきぬ馬士の園
 夜の香よあきつき
 むしうあへき鳴り續の
 ちあからし新沼人の碓
 秋うらまきいつ湯嫌
 月のやめ書と行らう中
 お面茶のさけけり

全 人 全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人

越人 全 人

さひあひて牧まきいらぬ里のる
川越らぬと母下ののこり
痛く疼く鳥の鳴くことありて蓮の葉
唱ふ声はきこは声あきり
あきりてうらをきくのうききり
後をいふことしうききり
とねよりもはあききり
の枝をうきかへる
さあおと磯まきり
唯口をきくはるるの月影
きききの群はあききり
つぎの医者乃後盗

全人全人越人越人越人越人

イ十三

ちる石より日いらぬれも
さあききりい何とらあきりん

越人

初まきや
日のみ
山川や
枝と
おあききり
あきり
川越ら
おきり
わきり

水 梧 水 梧 水 梧 水 梧

此のまきおきかた乃うまきこふ
るる取乃にゆらむつうと氷飲て
こころりおれおれらん 倍
峯乃雲あらふあらしとらん出り
後られうらのん 幸あ龍 さい
高しお子あまれうまきこふ一文
下戸ハ皆いく月のねちりも
耳や歯やさうても花の散るを
くさくささやよりふ乃 初午
いつやうもさうすめ此ねくに
山依りて人志ふんあしり
らうらうらうらうらうらうら

イ
十
七

倍 水 同 倍 水 倍 水 倍 水 倍 水 倍

挑灯こまにけり園まきりれ
何よりと泣らん髪と揺おるひ
志うらおもしろい水あま
らうらうらうらうらうらうら
う休着甲冑鎧折りてさび
雨やうらうのらまきりう面や
柳ちりうう例の 遠る
朝ふらう月了らうさうれおする
室一よ秋浜女夫居るうら
とらと上りよめうらうらうら
黍あらしとあしりうの酒
朝まのう急ゆるうの 倍

倍 全 水 倍 同 水 倍 水 倍 水 倍 水

ちかしきるゆめさしくさして洗
 存まをちとある故分を約りり
 亦ささしにあらうまじし和の枝
 秤ようしる人くく乃自
 此年よちらうて又のたもゆき
 はらうもせさうついで入自
 昔さうく漆子乃陰乃うりき
 手いしおまうよ志はひ蘇のを
 清を輸入せしのみ乃そくさるま
 衣引くある人乃くはく音
 毒ありと瓜一きれも喰めし
 片風るちくさうた 白雨

一井 氣浮
 一井 胡及
 一井 氣浮
 一井 胡及

イ 十六

板屋しく結ふふな乃内
 こゆ乃ゆけしる思来唐也
 ぬくくく日足乃きれぬ墨
 えりしとらあしるさうしし

一井 氣浮
 一井 氣浮
 一井 胡及

我れをいひ乃道はまなく千をいひ浪は
ふけし山は山乃と云はむうらやあはれと
ふちうれはむのち波あふくは山はぬる
かむもあはれくし秋津洲のくち
つとあはれかあはれしとあはれとあはれし
とあはれ乃とくちのあはれとあはれしと
のあはれしとあはれとあはれとあはれしと
あはれとあはれとあはれとあはれしと
あはれとあはれとあはれとあはれしと
あはれとあはれとあはれとあはれしと
あはれとあはれとあはれとあはれしと
あはれとあはれとあはれとあはれしと
あはれとあはれとあはれとあはれしと
あはれとあはれとあはれとあはれしと
あはれとあはれとあはれとあはれしと

るきまねたしきりしつらうしとてかたがはあつたけいも
うらむほつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
うらむほつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
うらむほつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
うらむほつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
おのつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
うらむほつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
うらむほつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
うらむほつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
うらむほつしきつあつたけいしつらうしとてかたがはあつたけいも
大鵬 録 文 入 かりし
安 永 三 年 甲 午 冬 十 一 月 吉 旦
長 有 記

安永三年甲午冬十一月吉旦

東都書肆

山崎金兵衛
富田新兵衛

皇都書肆

西村市郎右衛門
野田治兵衛
井筒庄兵衛

